

銅像園の はじまりはいつ?



1913年にこの松原の地に直正公銅像が建立されたことを
きっかけに、周辺一帯は銅像園として整備されました。
佐賀図書館、弘道館記念碑、徴古館、佐嘉神社などが
次々と建設されます。

10

代佐賀藩主鍋島直正なおまさ公の生誕から100年を迎えた大正2年(1913)、佐賀県民及び佐賀県出身者の寄付により直正公銅像が建立されました。高さ4メートルを超える巨像として、直正公は松原の地から佐賀を見守っていました。11月10日、佐賀県民待望の銅像除幕式が執り行われ、銅像の周りには多くの県民・市民が集まりました。

銅像建立の返礼として、11代鍋島直大公なおひろ(直正公長男)は銅像除幕式の日佐賀県内最初の公共図書館「佐賀図書館」を落成させました。佐賀県の文教発展のため、直正公が教育にかけた意志を受け継いで利用してほしいとの直大公の願いが込められています。

こうして、銅像建立を契機に松原一帯は銅像園として発展していきます。



銅像除幕式当日の様子。多くの人々が参集している。
銅像除幕式写真 大正2年(1913)撮影 鍋島報効会(徴古館)所蔵



館書圖及像銅公叟閑島鍋賀佐

銅像の左手の建物が佐賀図書館
銅像園絵葉書 大正2~5年頃撮影 鍋島報効会(徴古館)所蔵